

東高国際だより

平成31年3月12日
京都府立東舞鶴高等学校
国際教育部発行

2018 vol. 11

青葉中学校 英語ディベートボランティア (2月25日)

参加生徒11名が青葉中学校での英語の授業の補助員として参加しました。内容はディベートでした。ディベートとはあるテーマについて肯定・否定の2組に分かれて行う議論のことです。今回は「AETの先生が子育てをするのに舞鶴市か京都市かどちらが住むのによいか」でした。本校生徒は進行・助言・勝負の判定・講評をお手伝いしました。最初は戸惑いがちでしたが、最後は単語レベルから論理面までアドバイスをすることができました。アドバイスをする側に立つことで今回の参加は高校生にとって有意義な経験となりました。

感想 2年5組 山田瑞希 (白糸中学校出身)
中学生の英語でのディベートに補助という形で参加しました。中学生がうまく言い表すことのできない言葉を汲み取ってあげたり、会話が円滑に進むように配慮したりしましたが、頭ではわかっている、いざやってみると難しく、なかなか思うようにいきませんでした。しかし学べたことも多かったです。論理的に自分の意見を述べることは難しいことですが、この活動で体験できました。今回の活動を今後の自分の経験に活かしていきたいと思います。



世界で活躍する卒業生からのメッセージ 新保一姫さん (2017年3月卒業)

東高卒業後、カナダのバンクーバーで、ワーキングホリデービザと観光ビザを利用して、1年4ヶ月、英語の語学学校で学んだりアルバイトをしたりしました。バンクーバーで強く感じたことは、海外の語学学校で、英語で英語を学ぶことはかなり大変だということです。まずは、日本語で英文法をキッチリと理解することが大切です。つまり、日本の学校の授業でしっかり勉強しておくのが、海外で英語力を伸ばすための重要なポイントなのです。ただ、海外で英語を学ぶ利点は、学校を一步出たら、学んだことをアウトプットできる環境が目の前にあることです。私は休みの日に公園へ行って、時間に余裕のありそうなおじいさんやおばあさんに話しかけて、英語の学習ができる環境を作りました。

語学学校を卒業した後、仕事探しを始めました。周りの友達はインターネットで求人情報を検索していました。しかし、それでは店舗や従業員の方の様子がわからないので、私は自分の足で街中を歩いて、気になる店を覗いて、自分に向いているかなどを判断してから、何件かの飲食店の面接を受けました。無事、面接に受かって仕事を始めてからは、自分の英語力のなさに落胆する毎日でした。でも、生活するにはお金が必要なので、落ち込んでいる暇はありません。解らないことは、同じスタッフのリサさんに聞きました。メモ帳がメモ書きでいっぱいになるほど、接客のための英語を勉強しました。

皆さんも、一回しかない人生、チャンスを無駄にせず、思いっきり楽しんで下さい。私は、多くの方に応援していただき、貴重な経験を積ませて頂きました。今度は、オーストラリアでワーキングホリデーを利用します。感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいです。一生懸命勉強して、一生懸命働いて、一生懸命楽しみます！皆さんの明るく楽しい未来をお祈りします。(写真：アルバイト先のお客さんたちと。右端が私です)



府立高校生夢チャレンジ留学体験報告 2年4組 本田 琴音さん (川口中学校卒業)

- どのような研修でしたか。
年末の12月23日から1月6日までの約2週間、ホームステイをしながらアメリカ、ロサンゼルス(Citrus College)で語学研修を受けました。
- なぜこの留学補助に応募したのですか。
英語でコミュニケーション力をつけるためと米国でクリスマスやお正月を実際に体験してみたかったためです。
- 印象に残ったことは何ですか。
特にクリスマスのホームパーティーが印象に残っています。ホームステイ先に多くの親戚が集まり、日本のお正月のようでした。
- 前回のニュージーランドでの研修と比べて感じたことは何ですか。
日常会話をたくさんすることができ、自分の思いをたくさん伝えることができました。
- 東高生に伝えたいことは何ですか。
留学に限らず、何かに挑戦する等様々なことをしてみてください。

1年次に「トビタテ!留学JAPAN」に選ばれニュージーランドに留学した本田さんが、今回は府教委の留学補助支援事業でアメリカへ!



東高先生のAnother Sky 10回目 中道浩 学校長

“Now, I would like to tell you about another specialty in Maizuru, Nikujaga. It is a simmered dish with meat and...” パワーポイントのスクリーンを背に、幾分緊張した面持ちで、一人の生徒が説明を始める。マイクが次の生徒へと渡る。舞鶴の名所旧跡、日本の食文化、学校紹介と、テーマを変えながら英語のプレゼンテーションが続く...

ここは台北市立陽明高級中学(日本の高等学校にあたる)のカンファレンスルーム。目の前には、同年代の台湾の生徒たち。真剣な眼差しで聞き入っている。発表しているのは研修旅行で台湾を訪れている東舞鶴高校2年生国際文化コースの生徒たちである。およそ1時間、緊張のなかでのプレゼンテーションが終わると、いくつかのグループに分かれ、英語での異文化交流が始まる。そして、次第に和やかな雰囲気になっていく。

今回のテーマは「台湾と日本の食文化」。日本ではおなじみのカップ麺や「肉じゃが」のレトルトパックなど、台湾では珍しいと思われる日本の食べ物を、生徒たちがこの日のために用意してきた。

ともに昼食を終えると、グループごとにキャンパス見学へ。まるで大学のような、広大で自然溢れるキャンパスだ。この頃にはお互いにすっかり打ち解け、当然のように連絡先を交換し合う。ほんの2時間前に出会ったのが信じられないほどだ。しかし、時間はあっという間に過ぎ、別れの時が迫ってくる。終了セレモニー、記念撮影を終え、帰りのバスへと向かう。「再見!」(さようなら)と何度も繰り返し、最後まで別れを惜しむ。

国際文化コースの台湾研修旅行も昨年で5回目を迎えた。治安が良く親日的な台湾。今や日本の高校が選ぶ海外研修の行き先としては一番人気となっている。実際、空港から観光地、レストラン等あらゆる場所で日本の高校生を見かけないことはなかった。

過去と現在が同居しているかのような異国情緒あふれる街並み、悠久の歴史に圧倒される故宮博物院、現代建築技術の粋を集めた摩天楼 Taipei 101、19世紀末に金山として栄えていた頃の面影を色濃く残す九份の路地と石段...。観光地としての台湾の魅力は尽きない。

日本語学科で学ぶ大学生との交流、若者の街「西門町」での街頭インタビューも経験した。しかし、生徒にとっても、教員にとっても、この旅のハイライトは長年にわたる陽明高級中学の生徒たちとの交流である。

生徒たちが得たものは一人ひとり違うだろう。それは、息をのむほどの美しい景色であったかもしれないし、友と過ごした貴重な時間だったかもしれない。あるいは、異国で感じた旅愁だったかもしれない。いずれにせよ、高校生という感性豊かな時期に、外国の同年代の若者たちと交流し、感じた様々なことは、人々の面影、そして台湾の光や風の記憶とともに、これからはずっと心の中に生き続けることだろう。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

